# DICTIONARY

CULTIBASE

# “DIGTIONARY”とは？

## DIG + DICTIONARY

掘る、理解する　　辞書、辞典

## DIGTIONARY

**学術的な知見を紐解きながら、さらに深掘りし、探究を進める場**


Copyright © MIMIGURI All Rights Reserved.

DICTIONARY

CULTIBASE

# 組織における「身体性」を再考する

**9/5 TUE**

**20:00-21:00**



小田 裕和

株式会社MIMIGURI
デザインストラテジスト
/リサーチャー



田幡 祐斤

株式会社MIMIGURI
Facilitator

# 今日のトピック

1. “DIGTIONARY” とは？
2. 今回ディグるテーマは…「身体性」
3. 身体性の知見をディグる
4. 今後の探究に向けて


Copyright © MIMIGURI All Rights Reserved.

# 最近、感動したのはいつですか？

## 顧客価値の構造

| | |
|---|---|
| 未知価値 | 期待や願望を超えた驚きや感動を伴う価値 |
| 願望価値 | 潜在的に存在した願いや望みとしての価値 |
| 期待価値 | 顕在化した望みとして期待された価値 |
| 基本価値 | 満たさなければならない最低基準の価値 |

見えざる真実, カール アルブレヒト (著), Karl Albrecht (原名), 和田 正春 (翻訳), 1993, 日本能率協会マネジメントセンター, https://amzn.to/3P9xprO

## 見えてくる問い

私たちはなぜ「感動」できるのだろうか？

私たちはなぜ、一緒に「感動」できるのだろうか？

「感動させる」ということは可能なのだろうか？

## 今日のテーマは「身体性」

感動とは
私たちの感覚を通じて心が動く現象
あるいは、心の動きを感じること

感覚という身体性に向き合わずして
感動が生まれるような価値を
実現することはできないのでは？

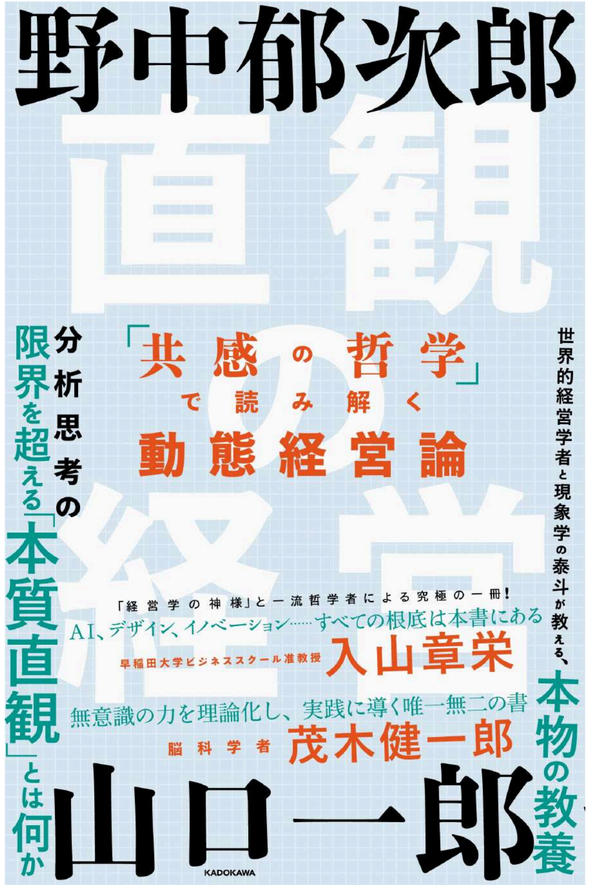
## 謝罪

とてもじゃ無いですが、1回のコンテンツに収まりません笑
私たちの身体と心にまつわることを1時間で説明できるはずもありませんでした笑

はっきり言って沼オブ沼です

今日はそんな沼への入り口に皆さんを誘う1時間だと思っていただけたら嬉しいです
全てを理解できた！という状況を目指さずに
新しい「わからないこと」が生まれてくる時間を楽しんでください

## 今日は主にこの書籍を中心に深掘りしていきます

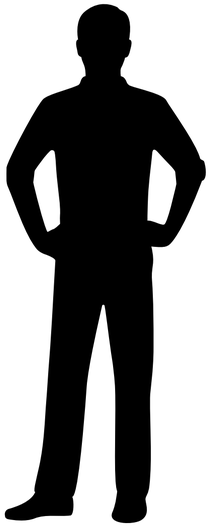



直観の経営 「共感の哲学」で読み解く動態経営論, 野中 郁次郎 (著), 山口 一郎 (著), 2019, KADOKAWA, https://amzn.to/3P5ThmE

## そもそも身体性とは何か

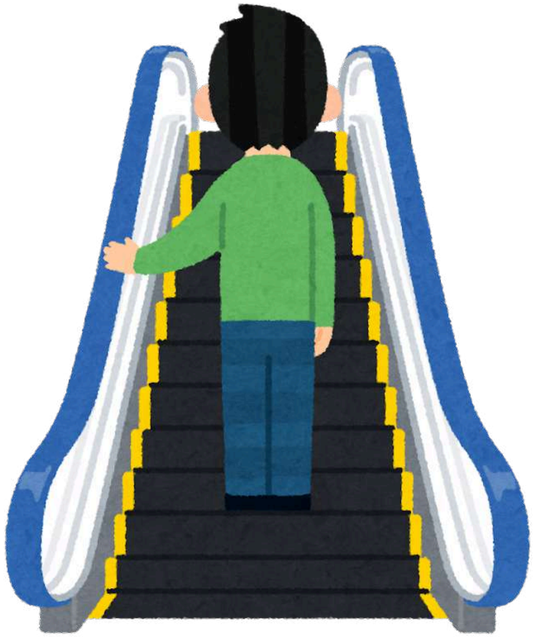
身体性（Embodiment）　認知主体の内外で生じる相互作用

身体があるから
環境の変化を
感じ取ることができる



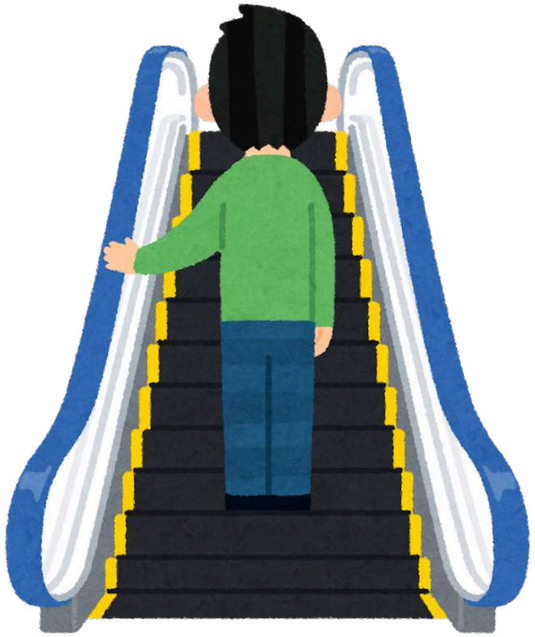
身体があるから
環境に変化を
もたらすことができる

## 動かないエスカレーターを歩く時の違和感



止まってしまっているエスカレーターを歩いて上がる時
何だか違和感を感じたことはありませんか？

## 動かないエスカレーターを歩く時の違和感



階段を登っている時と変わらないはずなのに
なぜこんなにも違う感覚を感じてしまうのだろうか？

## 志向性という概念が鍵を握る

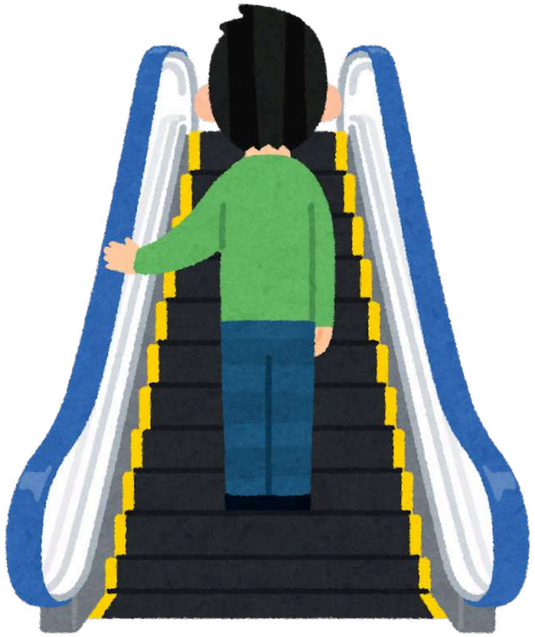
生きている限り我々は常に「自分ではないもの」、「自分のもとにはないもの」へと向かい、
それらを知り、それらに関わりながら生きている。

我々の「生」が何かへと向かい、何かに関わるというこの「方向性」を持った在り方は
「**志向性**」と呼ばれる。

フッサール志向性の哲学 = HUSSERL'S PHILOSOPHY OF INTENTIONALITY | 富山,豊,1981-

自分以外の何かが存在しなければ、私たちはそれを感じることも
そこに向かっていくこともできない
人間の生は一人で存在することはできない

## エスカレーターとの間に生じる志向性



私たちは、エスカレーターと階段を識別している
するとそこには、それぞれ違った志向性が働いている

## エスカレーターとの間に生じる志向性

### エスカレーター

最初はエスカレーターへの乗り降りに躊躇する
エスカレーターの動きに集中し
タイミングを合わせて足を前に出す

最初は意識を向けながら、意図的に体を動かす
この時エスカレーターと行動の主体（子供）との間に
生じている志向性を「能動的志向性」という

次第に、意識せずとも
エスカレーターに乗れるようになる

意識しなくても体を動かし乗れるようになった時に
エスカレーターと行動の主体との間に
生じている志向性を「受動的志向性」という

私たちが転ぶことなく段差を乗り越えられたり
電車が揺れた時に咄嗟に足を出したりできるのは「受動的志向性」の働き

## エスカレーターと階段との間に生じる志向性の違い

| エスカレーター | 階段 |
| --- | --- |
| 最初はエスカレーターへの乗り降りに躊躇する<br>エスカレーターの動きに集中し<br>タイミングを合わせて足を前に出す | 最初は段差に注意を払いながら<br>自分の体が倒れないようにバランスをとり<br>足をあげたりおろしたりして階段を進む |
| ▼ | ▼ |
| 次第に、意識せずとも<br>エスカレーターに乗れるようになる | 次第に、意識せずとも<br>階段を登れるようになる |

どちらも最初は能動的志向性が生じ、次第に受動的志向性へと変様していくが
エスカレーターに対して生じていた志向性と、階段に対して生じていた志向性は違うものである

## エスカレーターと階段との間に生じる志向性の違い

エスカレーターが止まっている時
受動的志向性のままにエスカレーターに乗ることはできず
改めて能動的志向性を働かせることになる

▼

受動的志向性による予期とのズレが生じたことや
エスカレーターと階段との間にある志向性の違いから
動作としては階段を登る行為と同じでも、私たちの体には違和感が生じることになる

私たちは、日々生きる中で、身体を介して外との間に生じる
様々な能動的志向性と受動的志向性の中で相互作用を繰り広げている

# 改めて志向性とは

現象学では、心と身体は意識の有無にかかわらず「何かに向かって」働いている、という理解があります。
何かが見える・感じられる・わかるというのは、心と身体が、その見る・感じる・わかる物や人、
事象に対して知覚のアンテナを張っていたからです。この知覚対象に心身のアンテナが、
意識の有無にかかわらず向けられていることを、現象学では「志向性(Intentionality)」と表している
〜
さらに、無意識的に物事をとらえる知覚のアンテナを「受動的志向性」、
意識的に対象をとらえる知覚の原動力を「能動的志向性」と呼びます。

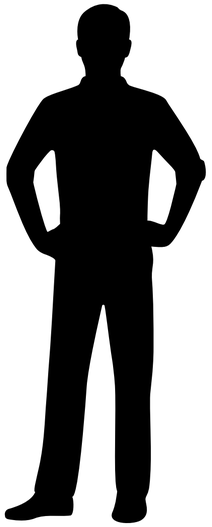
直観の経営 「共感の哲学」で読み解く動態経営論, 野中 郁次郎 (著), 山口 一郎 (著), 2019, KADOKAWA, https://amzn.to/3P5ThmE

私たちは、身体を通じて、常に対象を知覚しようとしている
仮にそれが無意識であったとしても、対象は私たちに働きかけてきている

## そもそも身体性とは何か

身体性（Embodiment）　認知主体の内外で生じる相互作用

身体があるから
環境の変化を
感じ取ることができる



身体があるから
環境に変化を
もたらすことができる

## 改めて志向性とは

現象学では、心と身体は意識の有無にかかわらず「何かに向かって」働いている、という理解があります。
何かが見える・感じられる・わかるというのは、心と身体が、その見る・感じる・わかる物や人、
事象に対して知覚のアンテナを張っていたからです。この知覚対象に心身のアンテナが、
意識の有無にかかわらず向かっていることを「現象学では志向（intentionality）」とよびます。
～
さらに、無意識的に物事をとらえる知覚のアンテナを「受動的志向性」、
意識的に対象をとらえる知覚の原動力を「能動的志向性」と呼びます。

直観の経営 「共感の哲学」で読み解く動態経営論, 野中 郁次郎 (著), 山口 一郎 (著), 2019, KADOKAWA, https://amzn.to/3P5ThmE

**こうした志向性による感覚や近くの中で**

**私たちはどのように生きているのだろうか？**

私たちは、身体を通じて、常に対象を知覚しようとしている

仮にそれが無意識であったとしても、対象は私たちに働きかけてきている

## 能動的志向性と受動的志向性の綜合によって意味づけられ、価値づけられる

**綜合**

志向性のまとまり（連合）に意味づけや価値づけが生じること

「総」ではなく「綜」の字を使っているのは、その都度新たに作り上げるという意味があるから

**能動的綜合**

意識的な対象に対する志向性の綜合によって生じる意味づけや価値づけ

例）雪道を歩く時、滑りそうな地面であるという「まとまり」を知覚し転ばないように慎重に足を運ぼうとする

**受動的綜合**

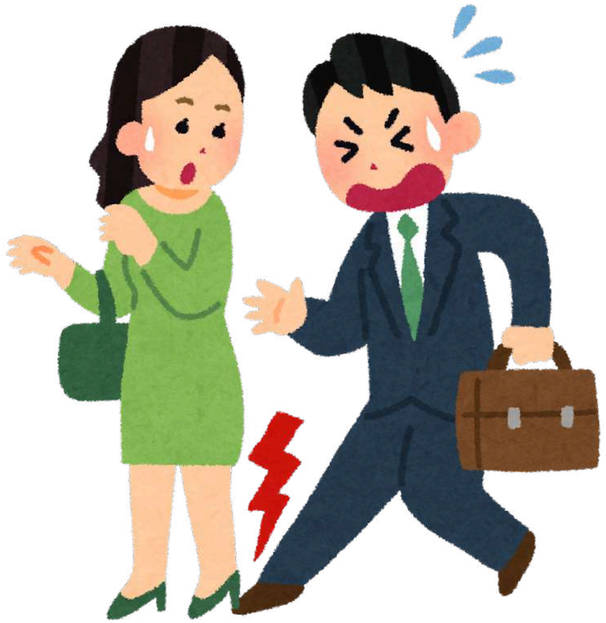
無意識的な対象に対する志向性の綜合によって生じる意味づけや価値づけ

例）冷房が急に止まった時、初めて冷房の音という「まとまり」のあるものの存在に気が付く

志向性のまとまりに対して意味づけや価値づけが生じつづける状況の中で
私たちは日々行動・思考している

## 電車が急停止した時、隣の人の足を踏んでしまったという現象

受動的志向性によって
体のバランスが
崩れそうになることを無意識に感じ取り
無意識のうちに足を踏み出す
（不随意運動）



足を踏み出した時
受動的志向性によって
いつもと違う足の感覚に気がつき
踏んでしまったことを認識し
咄嗟に謝罪する

受動的志向性や受動的綜合が引き起こした「不随意運動」が
「受動的意識」として意識された状態

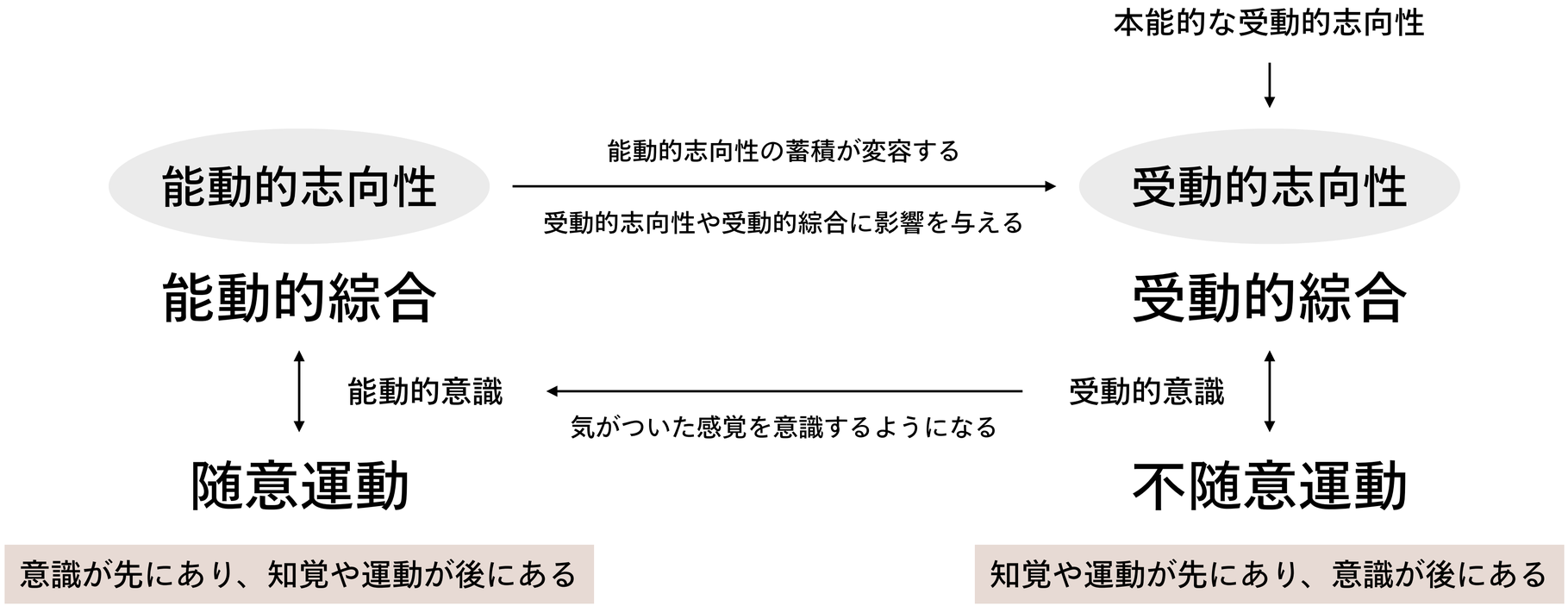
## 電車が急停止した時、隣の人の足を踏んでしまったという現象

受動的志向性によって
体のバランスが
崩れそうになることを感じ取る

この不安定さを利用して
揺れのちょうど良いタイミングで
隣の嫌いな上司を踏んで
日頃の鬱憤を晴らそうと思いつき
実際に意図を持って行動に移す
（随意運動）

受動的志向性や受動的綜合が、受動的意識として意識され
それを利用しようという「能動的意識」によって「随意運動」が生じた状態

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性



## 野球選手は、なぜボールを打てるのか

ピッチャーが145キロのボールを投げた時、ホームベースまでは約0.45秒で到達する

↕

人間は、感覚で感じ取ってから、それを意識するまでに、0.5秒の遅延が生じる

（リベットの0.5秒の意識の遅延説）

つまり、バッターはボールを意識的に感知できておらず、無意識でボールを打っている
バットを振ろうとする動きそのものは随意運動として動くことが可能だが
ボールの軌道を見極めて、スイングを調整しているのはどうしても不随意運動になる

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性

カーブが来そうだな…

能動的志向性

能動的綜合

↕

随意運動

意識が先にあり、知覚や運動が後にある

能動的志向性によって
受動的志向性が発揮される対象にも
変化が生まれる

ストレートだった…！
カーブに対する受動的志向性が
発揮されやすい状態になっていた

受動的志向性

受動的綜合

↕

不随意運動

知覚や運動が先にあり、意識が後にある

フロー状態に入った時は、あまり何も考えずに打っていることが多い

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性

素振りやバッティング練習で
受動的志向性が形成されていくことで
ボールが打てるようになる

能動的志向性 → 受動的志向性

能動的綜合

受動的綜合

能動的意識 ↕

↕ 受動的意識

ルーティンが確立されているからこそ
違和感に気がつくことができ、意識的に調整できる

随意運動

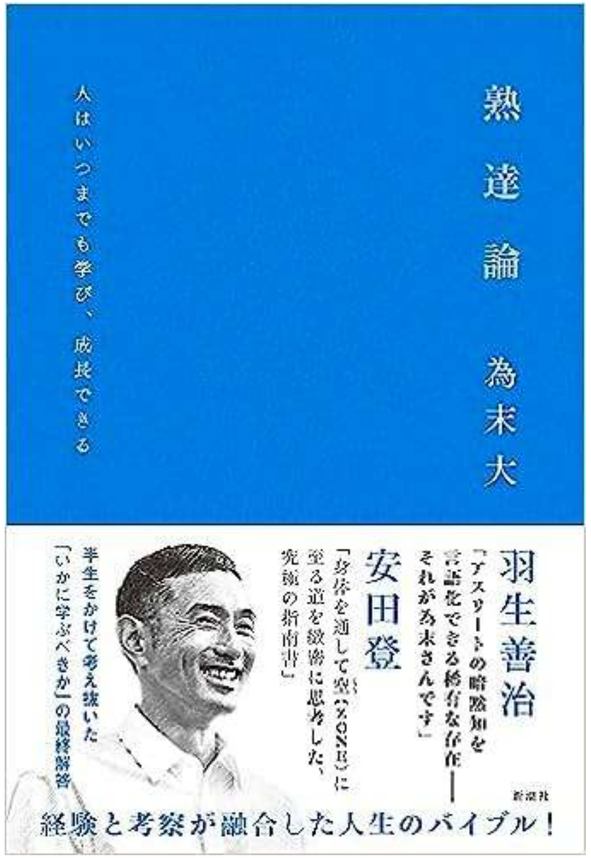
不随意運動

意識が先にあり、知覚や運動が後にある

知覚や運動が先にあり、意識が後にある

イチローがルーティンを大切にしていたのは、受動的志向性に
正しく反応する体を作るためであり、同時に違和感に気がつくためでもある

# 熟達論



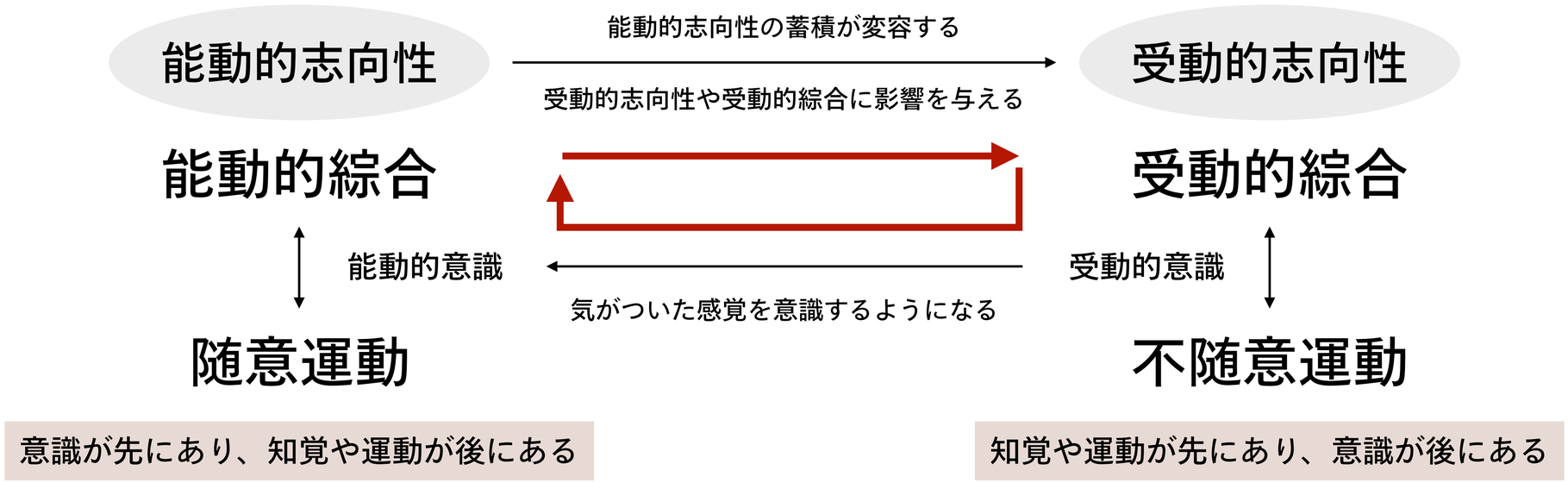

基礎の習得から無我の境地まで、人間の成長には５つの段階がある。
その階段を昇るのに年齢は関係ない。では、壁を越え、
先に進むために必要なものは何か。自分をどう扱えばいいのか。
「走る哲学者」が半生をかけて考え抜き、様々なジャンルの
達人たちとの対話を重ねて辿り着いた方法論が一冊に。

**人生をより良く生きるために、**
**自身の探求と成長を極める――**

熟達論：人はいつまでも学び、成長できる，為末　大 (著), 2023, 新潮社, https://amzn.to/3LxEWyH

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性

私たちの生活は、受動的志向性の働きから生じる不随意運動が大多数を占めている




能動的志向性を起点とした随意運動の蓄積によって、受動的志向性が形成される

受動的綜合による不随意運動に意識を向けることで、さらに人は動きを成熟化させていく

## 見えてくる問い

# 私たちはなぜ「感動」できるのだろうか？

## 「感動」という現象は、「不随意運動」である

**気がついたら涙が流れていた**

**勝手に叫び、体が動いていた**

**思わず心が動かされた**

私たちは、意図して感動することができない
意識的に感動しようとしても、そこに大きく心は動かない
そしてそこには、受動的志向性や受動的綜合が大きく関与している

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性

日常生活で培った受動的志向性

↓

映画に対する

**受動的志向性**

**受動的綜合**

↕ 感動して涙を流す

**不随意運動**

知覚や運動が先にあり、意識が後にある

無意識の中にある受動的綜合によって、感動するという身体反応（不随意運動）が生じる

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性

日常生活で培った受動的志向性

↓

作品に対する

**受動的志向性**

**受動的綜合**

生じた現象を意識する ↕ 感動して涙を流す

**不随意運動**

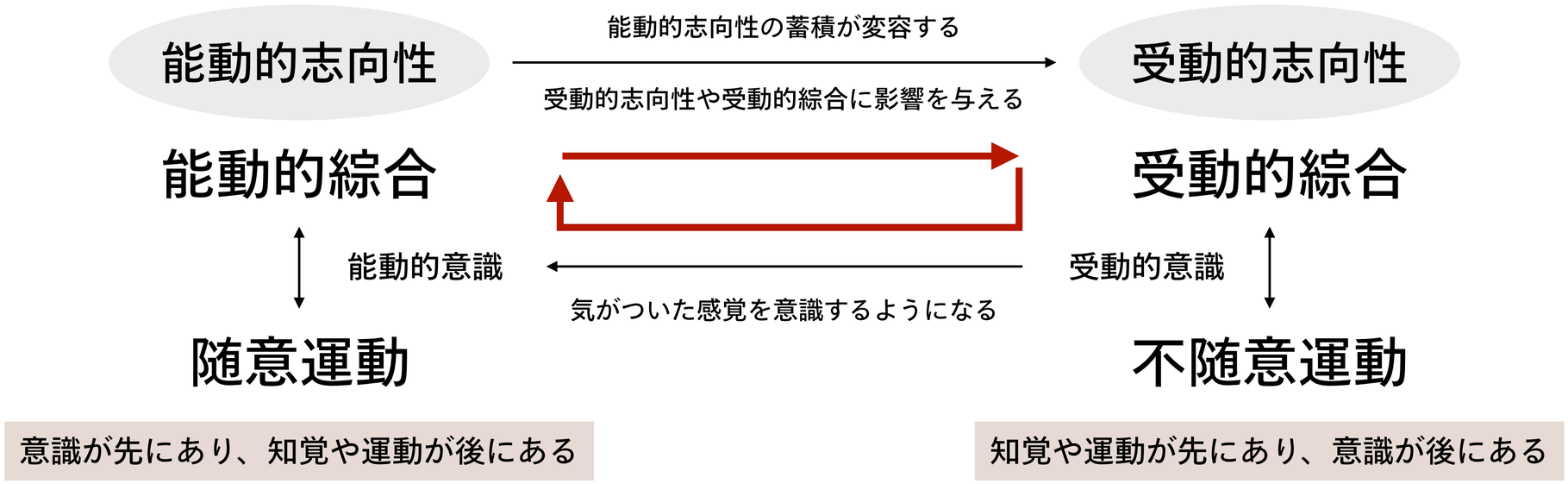
知覚や運動が先にあり、意識が後にある

感動を伴うような未知価値を実現しようとするのであれば

そもそも私たちは、なぜ心が動くのか、に焦点を当てなければならない

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性

私たちの生活は、受動的志向性の働きから生じる不随意運動が大多数を占めている

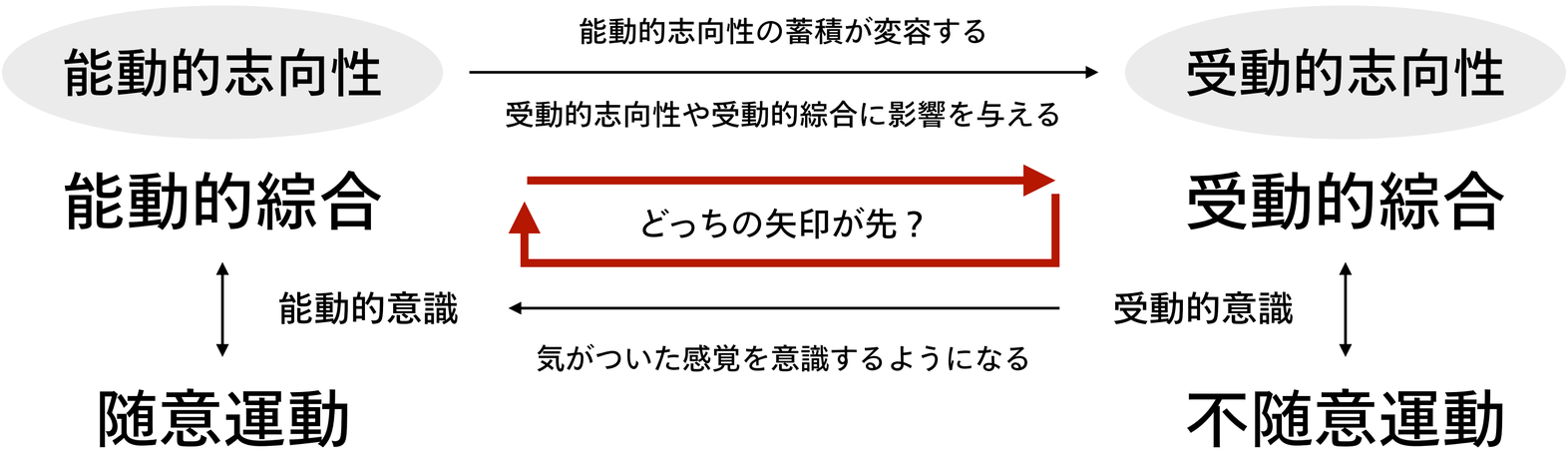



受動的意識に焦点を当てることで、心の動きを探究し、そこに能動的意識を働かせ表現を広げていく

表現活動によって、さらに受動的志向性が形成されていき、新たな心の動きが生まれる

# 生じてくる問い

①能動的志向性の蓄積によって受動的志向性を形成することが先なのか
あるいは受動的綜合による不随意運動に気が付くことが先なのか




意識が先にあり、知覚や運動が後にある

知覚や運動が先にあり、意識が後にある

## そもそも私たちはいつから自らの身体を認識できるようになったのか

生後4ヶ月ごろまでの赤ちゃんは
隣にいる赤ちゃんが泣いているのか自分が泣いているのかわからない

## そもそも私たちはいつから自らの身体を認識できるようになったのか

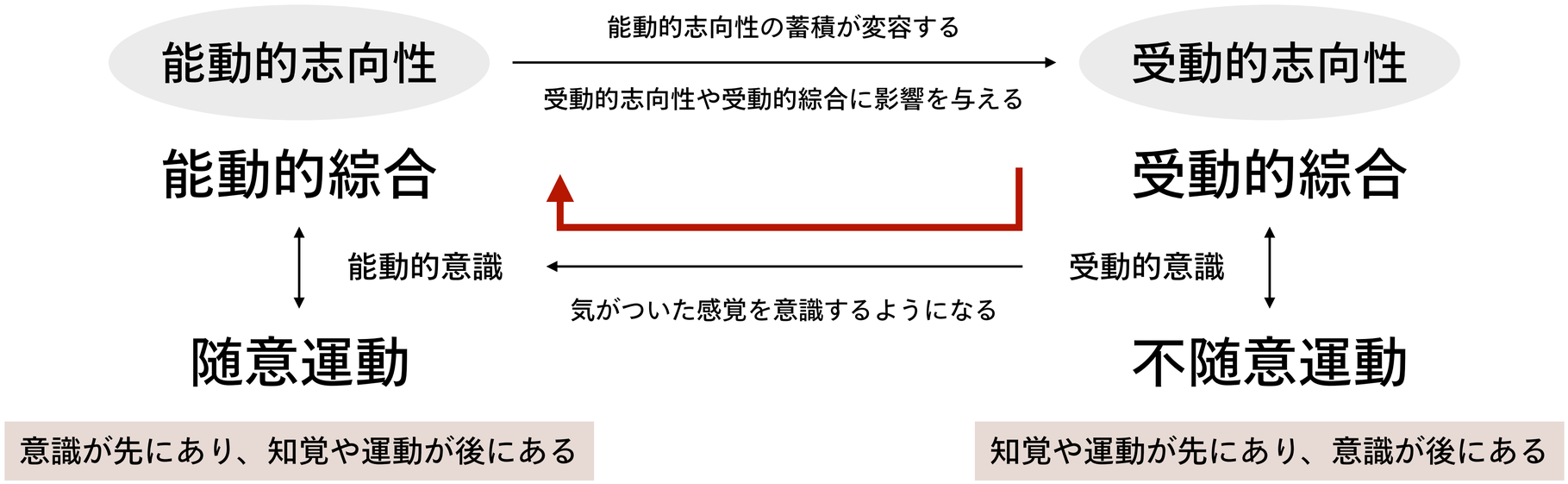
ある時、自分の発した声（喃語）の時にはあった身体感覚が
母親が真似して発した声が聞こえた時には、生じないことに気がつく

## そもそも私たちはいつから自らの身体を認識できるようになったのか

徐々に自我の意識が芽生え、感覚を識別できるようになり
自分の自覚をもって行動できるようになっていく

## 生じてくる問い

①能動的志向性の蓄積によって受動的志向性を形成することが先なのか
あるいは受動的綜合による不随意運動に気が付くことが先なのか




先にあったのは、意識の生じない、受動的志向性があり、徐々にそれに気がつくことで
自我が形成され、能動的意識や随意運動が可能になっていく

# 生じてくる問い

日常生活で培った受動的志向性

↓

作品に対する

**受動的志向性**

**受動的綜合**

生じた現象を意識する ↕ 感動して涙を流す

**不随意運動**

知覚や運動が先にあり、意識が後にある

② 私たちは「共感」することができるのか？

私たちは、誰かの中にある受動的志向性、受動的綜合を分かち合うことができるのか

## 実は、最初に私たちが持っているのは共感の方である

生後4ヶ月ごろまでの赤ちゃんは
隣にいる赤ちゃんが泣いているのか自分が泣いているのかわからない

## 実は、最初に私たちが持っているのは共感の方である

感情や行動への「引き込み現象」によって
私たちは自然と想いを共にしたり、息を合わせたりしている

## 生じてくる問い

② 私たちは「共感」することができるのか？

私たちは、誰かの中にある受動的志向性、受動的綜合を分かち合うことができるのか

日常生活で培った受動的志向性

↓

作品に対する

**受動的志向性**

**受動的綜合**

生じた現象を意識する ↕ 感動して涙を流す

**不随意運動**

知覚や運動が先にあり、意識が後にある

そもそもは「共感」が先にある訳で、私たちはもともと「共感」しあえる身体を持っている

# 間身体性

互いの受動的志向性の中で生じる不随意運動が共鳴し合い
無意識のうち身体感覚がシンクしたような状態が訪れる

DICTIONARY

CULTIBASE

# 「対話」とは何か？改めて定義を探る

**7/4 THU**

**20:00-21:00**



小田 裕和

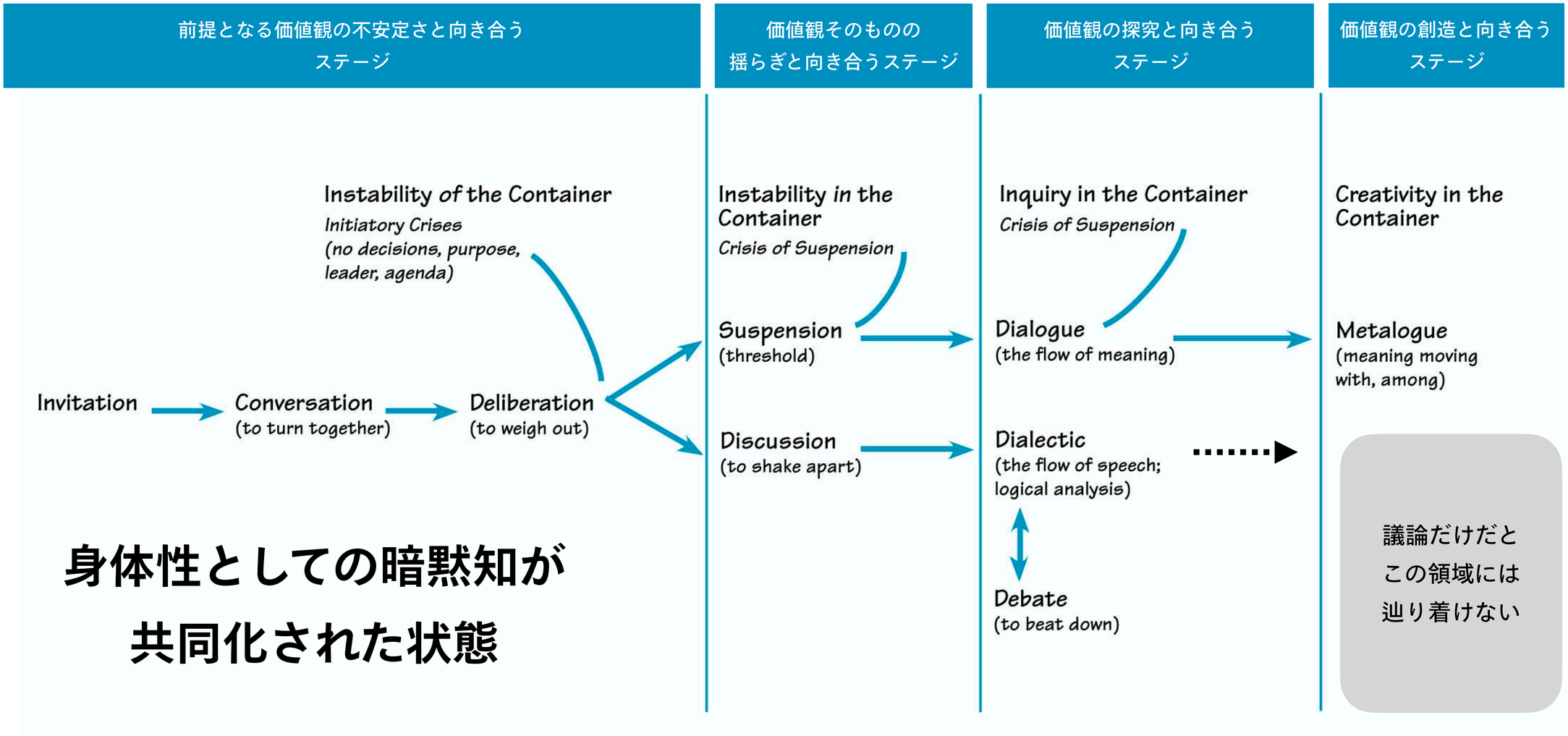
株式会社MIMIGURI
デザインストラテジスト
/リサーチャー



安斎 勇樹

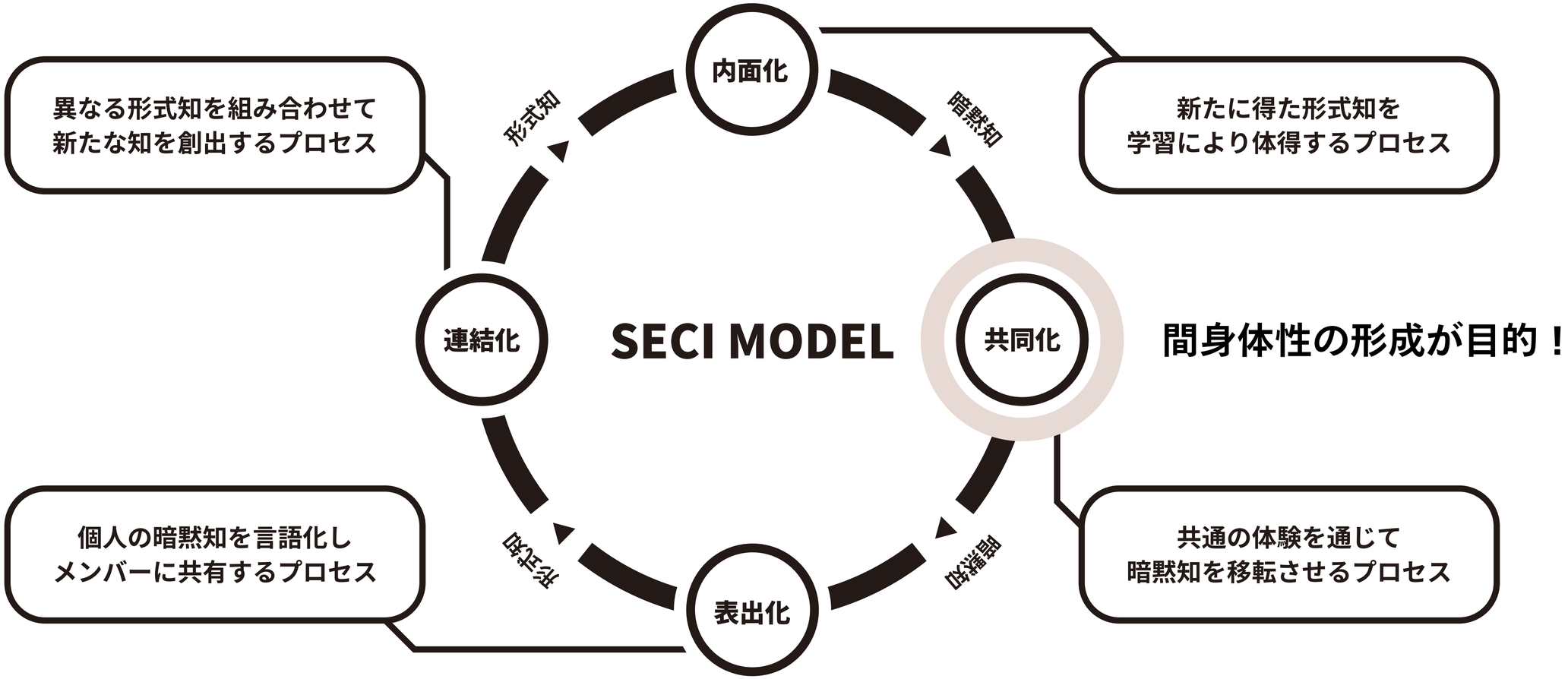
株式会社MIMIGURI
代表取締役Co-CEO

# アイザックの示した対話の段階




William N. Isaacs, DIALOGUE: THE POWER OF COLLECTIVE THINKING（THE SYSTEMS THINKER, vol.4, 1993）

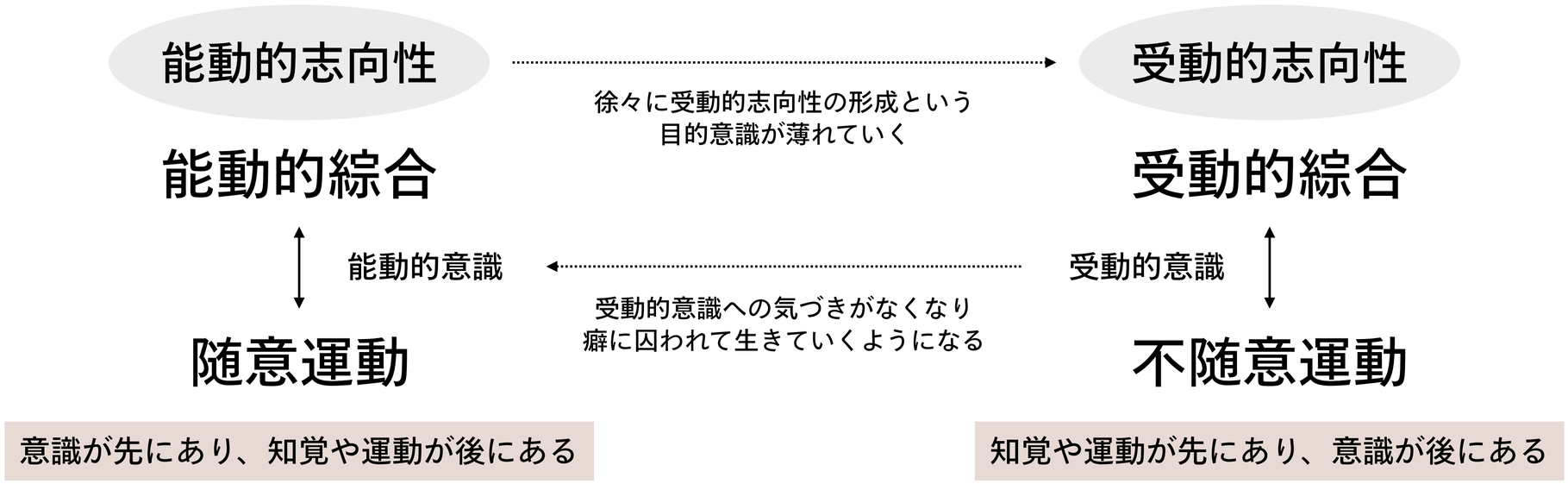
# 共同化とは、間身体性が形成された共同体を成すこと




野中郁次郎他：知識創造企業(新装版), 東洋経済新報社, 2020 を参考に作成

## ここで私たちが陥りがちな、２つの落とし穴がある

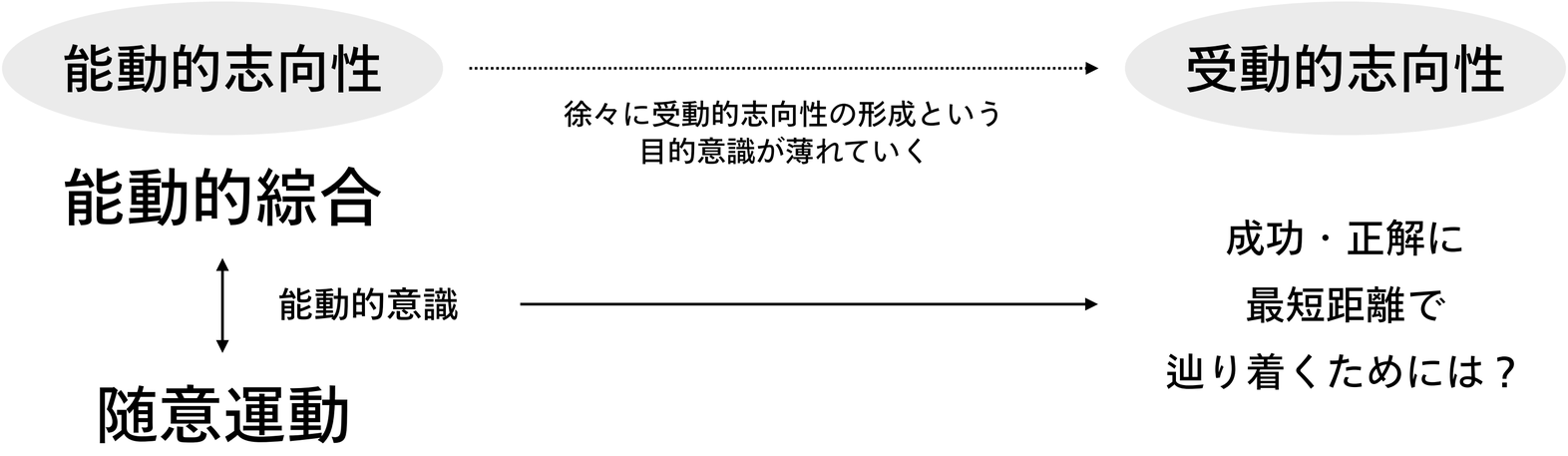
多くの人は、どうやったら良いものが見分けられるのか、良いものを生み出せるようになるのか
最短距離でより良い解を導くための能動的意識の持ち方を知りたがる




形成された受動的志向性は、無意識の癖とも言える、ある種の囚われでもある
受動的意識に焦点が当たらなくなると、人は慣れの中で生きていくことになる

## ここで私たちが陥りがちな、２つの落とし穴がある

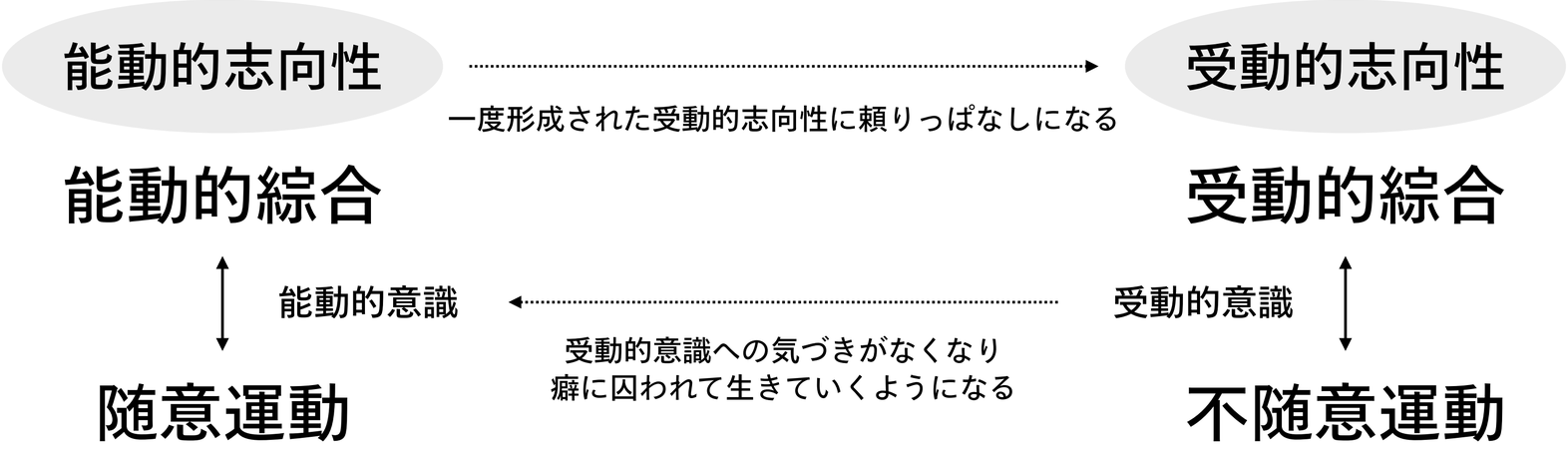
多くの人は、どうやったら良いものが見分けられるのか、良いものを生み出せるようになるのか
最短距離でより良い解を導くための能動的意識の持ち方を知りたがる




次第には、志向性に意識を向けることもなく
機械のように、あるいは軍隊のように、正しく行動することを目指そうとし
身体性への意識は失われていく

## ここで私たちが陥りがちな、２つの落とし穴がある

形成された受動的志向性は、無意識の癖とも言える、ある種の囚われでもある
受動的意識に焦点が当たらなくなると、人は慣れの中で生きていくことになる




どんなにセンスがいい人でも、受動的綜合から生じる受動的意識に注意を払わなくなっていけば
変化を感じ取れなくなっていく（変化についていけなくなる）

# 概念シフト9
# イノベーション

**ヒトとコトに通底する「変革」のメカニズムとは?**

2022.6.25 土 10:00–11:30

永山晋

一橋大学
ソーシャル・データサイエンス
教育研究推進センター 准教授

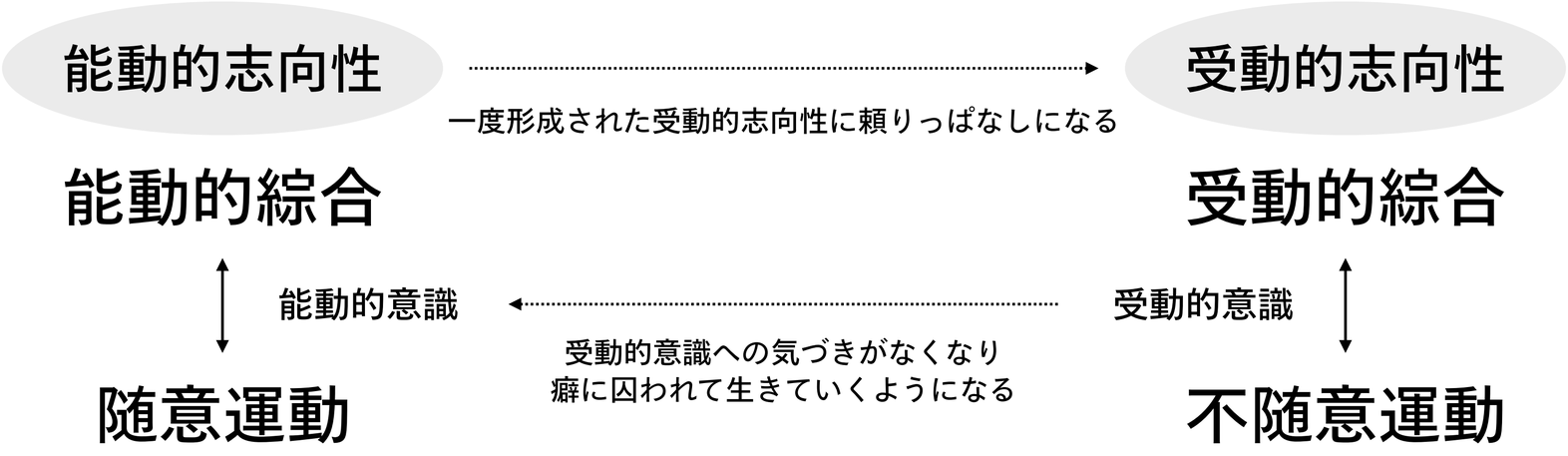
小田裕和

株式会社MIMIGURI
デザインストラテジスト／リサーチャー

われわれはモノを知覚するうえで
想像以上に視覚情報に頼っていない（4-10%）！？
（知覚は「ボトムアップ」で生まれない）

## ここで私たちが陥りがちな、２つの落とし穴がある

形成された受動的志向性は、無意識の癖とも言える、ある種の囚われでもある
受動的意識に焦点が当たらなくなると、人は慣れの中で生きていくことになる

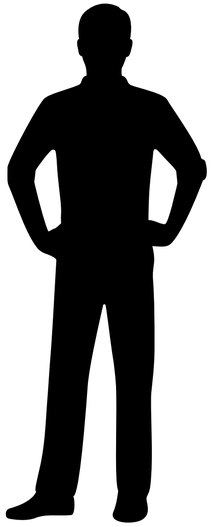



概念を獲得すればするほど、トップダウンの潜在的な志向性がより強く働くようになり
次第に受動的志向性の働きも弱まっていく

つまり、私たちは、徐々に身体にやってきているものへの意識が薄れていく

身体性（Embodiment）　認知主体の内外で生じる相互作用

身体があるから
環境の変化を
感じ取ることができる

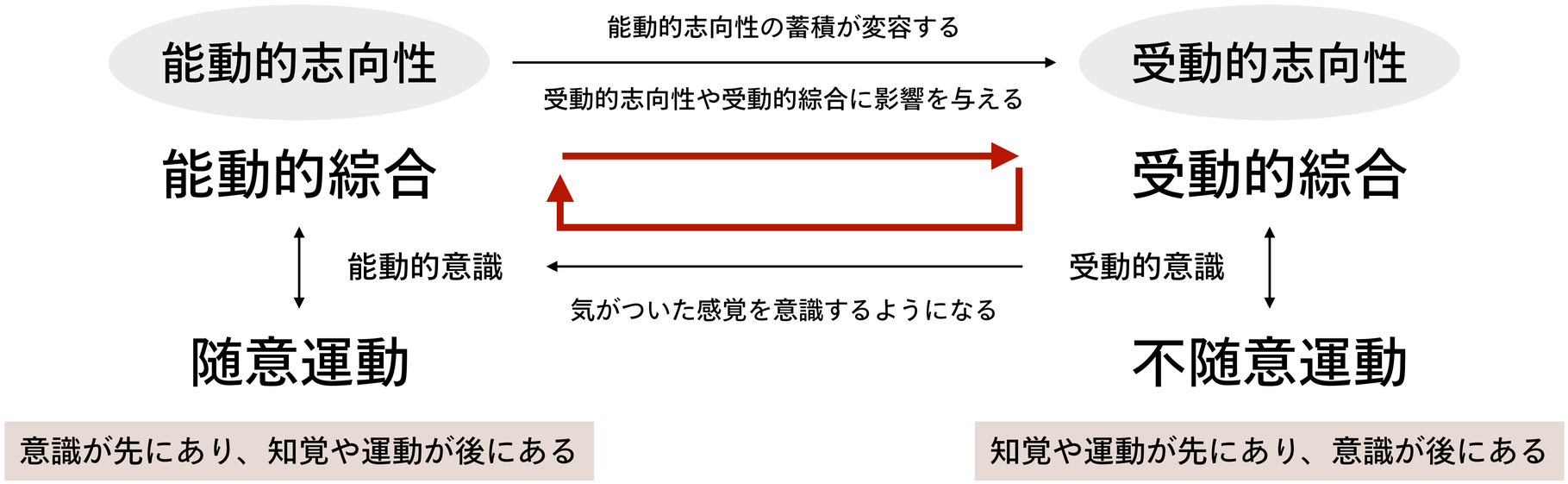


身体があるから
環境に変化を
もたらすことができる

身体性への意識を向けようとしなければ、あるいは間身体性の形成を怠れば
どんなに良い活動だったとしても、それは陳腐化していく

# 志向性と綜合、意識と運動の関係性

私たちの生活は、受動的志向性の働きから生じる不随意運動が大多数を占めている




受動的意識に焦点を当てることで、心の動きを探究し、そこに能動的意識を働かせ表現を広げていく

表現活動によって、さらに受動的志向性が形成されていき、新たな心の動きが生まれる

## 次のDIGTIONARYのテーマは…

# 探究と自己実現


Copyright © MIMIGURI All Rights Reserved.

そして…

# 身体性 Part2
# やらせてください！


Copyright © MIMIGURI All Rights Reserved.

# 今後のCULTIBASE番組

▼9/12(火)動画公開

テーマ：ファシリテーション観

ミナベトモミ
株式会社MIMIGURI 代表取締役Co-CEO

安斎勇樹
株式会社MIMIGURI 代表取締役Co-CEO

▼9/19(火)20時～ライブ開催

東南 裕美
株式会社MIMIGURI リサーチャー

制度と文化
組織を動かす見えない力

佐藤 郁哉 (著), 山田 真茂留 (著)
日経BPマーケティング

▼9/26(火)20時～動画公開

「心理学的経営」をアップデートする：
新生リクルートが掲げる新しいマネジメント論（仮）

ゲスト：堀川拓郎さん
株式会社リクルート 人材・組織開発室室長
/ヒトラボ ラボ長

安斎勇樹
株式会社MIMIGURI 代表取締役Co-CEO

DICTIONARY

CULTIBASE

# 組織における「身体性」を再考する

**9/5 TUE**

**20:00-21:00**



小田 裕和

株式会社MIMIGURI
デザインストラテジスト
/リサーチャー



田幡 祐斤

株式会社MIMIGURI
Facilitator